



発行所 東京薬科大学 学生新聞会 八王子市堀ノ内 1432-1



秋のスポーツ特集

＜野球部＞

東都大学四部前期リーグ戦
第一試合 九月十五日
東薬大―上智大 4対5
前期試験の前日、千葉大グラウンドまで遠征し試合に望んだが接戦の末、惜しくも負け。
第二戦―東工大 2対12
東工大の12安打に対し、東薬十五安打であったが、わずかに二点しかとれず惨敗。
第三戦 十月十日
東薬大―学習院大 2対9

＜バレー部＞

*女子部
学連 第一戦 十月二日
東薬大―横浜市立大 2対1
東薬大―茨城大 0対2
第二戦 十月九日
東薬大―東京女子短大 2対0
東薬大―武蔵野美大 2対0

*男子部

学連 第一戦 十月二日
東薬大―桜美林 3対1
第二戦 十月九日
東薬大―二松学舎 3対2
第三戦 十月十日
東薬大―防衛医大 3対2
＜軟式テニス部＞

*男子部

関東学生軟式庭球大会
十月八・十日 秋季リーグ戦
春秋連続優勝！
高野部長の話「全員一丸となって試合に望んだ結果、春に続き、優勝することが出来ました。春は入れ替え戦で敗

れたので、今度こそ勝って春の雪辱をはらしたいと思えます。」

＜サッカー部＞

都学連サッカー 第四部
対電通大 四対二
対明星 二対二
対日大商 一対三
対高千穂 七対〇
対理工大 一対二

秋の試合予定

＜サッカー部＞

都学連サッカー 第四部
十月二十三日 対歯科大
（三時 東薬大於）

＜バレー部＞

*女子部
医歯薬連 十月三十日
十一月三日
軟式テニス部

*男子部

学連 十月二十二・三日
（白子リニークコート於）
理工連 十月二十九・三十日
（東薬大コート於）
理工連 個人戦
十一月三・六日
（水産大・芝工・農工大於）

医歯薬新人戦

十一月二十日
＜硬式テニス部＞
男子部
理工連
十月二十三日 対千葉工大
（以上東薬大於）

バス時刻改正



十月三十日 対足利工大
（足利工大於）
女子部
理工連
十月二十三日 対東京農大
（東薬大於）
十月三十日 対星薬
（東薬大於）

改装工事をおえて

図書館棟4階の改装工事完了と共に第一〇第五会議室・学長室、理事長室等の管理部門の移動がおこなわれた。この結果、図書館棟3階の旧第一会議室がコンピュータ室及び標本室として使用されることになり、さらに教育棟二階の第二会議室が空き部屋となった。そこで、工事完了後の動向をさぐってみた。

学には他大学にみられないような古く珍しい標本も多数あり、それをみることによって日本の生薬、薬品の歴史を調べると早くも利用可能な状態にしようとする折衷案が立てられた。しかし、薬草園の管理も合せて担当しているため思うよりあはすすまないという。とりあえず講義で取り上げるものは教育棟三階南廊下下い展示されているが、どうして展示されているのか、どうして申し出たのか、研究の方であったのか、とはいえず、整理も十分なためその配置も満足いくものではなく、仮に利用を許可するとしても、かなりの知識を有する学生でなければ

慮されてはいない。時刻改正に伴う利用者の声を聞いてみると、まず多摩センター行のバス利用者、月曜から金曜までの時刻改正により、帰りの電車で間に合うようになつて、大変便利であるが、土曜の改正はあまり影響はないようだ。次に豊田バスを利用しての学生の声を聞いてみると、昼の時間帯しか変更されていないので、従来通りであるようだ。時刻改正案が出された時、施設課では、学生の要望を待っていたと語っているが、執行委員会では改正案を受け取っておらず、学生側はこの改正が考えられていることを知らなかつた。尚、現段階では、多摩センター・豊田バスの増便は考えられていないようである。

理解に達することは難しいと。ちなみに所有している標本は生薬・さく葉・動物標本の三種で、さく葉標本は三分の一の整理が為されている。また空き部屋となつた旧第二会議室は引続き第六会議室として残るそうである。しかし、これは一時的なものであり、新カリキュラムの様子を見ながらいずれば教育の場として還元していきたいとの意向を大学側では示している。今のところ、大学院関係の部屋にしようとの案もでてはいるらしいが、はっきりしたことは何も決まっていないようである。しかし、諸語の理由から使用用途に合せて、外観が変わるような大規模な改装工事を行なうつもりはないように見受けられた。いづれにせよ、改装の結果空いた部屋を有効に利用するように取計らってもらいたいものである。

味薬

八月下旬、河口湖を中心とする台風の被害は連日新聞をにぎわした。そうこうして入つていくうちに九月韓航空機が撃墜された。米ソの緊迫した対立は、ここにも如実に現れ、冷戦からものはやぶけることのできない日本の危機感を抱かずにはいられないなかつた。大韓航空機撃墜関連記事が一面から姿をけす頃になつた。富士山爆発説がにわかになつた。東薬生はこの頃、必死にコピーいや、教科書や自筆ノットとにらめっこ夜も寝ないで頑張つた結果は二月八日のアレクシヤとして二しかかる。あの図書館争奪戦を約三ヶ月後にひかえ、今図書館は平静を保っている。その静かな図書館とは対称的に大噴火を起したのが三宅島。富士山爆発説がどこでどう狂つたのか伊豆諸島の孤島が盛り狂つた。各地で運動会が盛んに行われるようになる。いよいよプロ野球も大詰め。体育の日には西武ライオンズがパ・リーグを、翌日、巨人軍がセ・リーグを制した。GL決戦の実現は、多くのプロ野球ファンにとつて注目されることだろう。十月十二日国民の興味をひいたのがロッキード事件判決である。実刑判決を受けた田中元首相は直ちに控訴した。マスコミの世論調査では、その8割が田中議員辞職を主張している。ともあれ政界の黒幕として暗躍していた田中の姿と五億圓というケタはずれのお金にはただ驚くばかりである。並の男ではない。政界、スポーツ界等、とにかくこの2ヶ月慌ただしかった東薬でもこれから体育祭、祭りの季節となる。緑の学園も活気を増すことだろう。

薬研解散か

部室運用への波紋

五月の東薬新聞で「薬学研究会」(以下「薬研」)について報告したが、その後はいっただいどなされたのか、新たに持ちあがった部室の問題も加え、再びこの問題をとりあげる。

特別小委員会である「薬研」とは何であるのか？

本学の八王子移転以前、その前身ともいえる「薬局経営研究会」なるクラブが存在していた。八王子移転後、そのクラブは衰退し、消滅した。それに換わるものとして、時々の執行は「薬研」を発足させた。活動が活発であった初期には、「全国薬学生ゼミナール」に本学代表として出席するなどしていたのだが、近年その活動は低迷し、本来の特別小委員会であるべき姿もくずれ、毎週月曜の集会和、水曜のゼミ、それに薬祭での研究発表等、まるで学術系クラブそのものになっていった。

二、三年前から執行は薬研に対し、クラブになってはどうかとの申し入れもしていたが彼らになるのでは、という危惧から実現には至っていない。業をにやした執行は、今年の四月、薬研に部室を返換させた。ここで部室の取扱いは、前出の「薬局経営研究会」が解散した時、その部室は、執行の管理することとなり、執行はそれを特別小委員会とし、当時発足した「薬研」にその部室を貸与した。まあ、いかなれば、今回はその部室の返換であった。

ここで、この空いた一つの部室の運用が問題としてクローズアップされてきた。ところで、特別小委員会の成立、解散には、自治委員会の承認を必要とすることを御存じだろうか。(自治会規約第四十四条)それをまず頭に入れておいてほしい。

現在、執行はあまりの「薬研」の低迷ぶりに頭を痛め、その解散の提案を自治委員会に提出している。一方、「薬研はつぶさず、新メンバーで活性化を計る」という新しい動きがでてきた。そしてこれを自治委員会が支持したところからややこしくなる。執行だけでは「薬研」を解散することはできない。執行は返還された特別小委員会室を用いて、次のようなことを行なう予定である。

まず、漢研を旧特別委員会室に移転する。(これはすでに執行、漢研の二者間の合意により行われた。)次に旧漢研部室に、現在、部室棟三階左側一番手前の「コンピュータ室」を移転し、「三階の手前より三室を開ける。そしてこれを全部つなげて、ゼミ室等として解放しようというもの。現在、各クラブはゼミ、練習等を行なう講義室を確保することに大わらわである。各クラブからも要望がでていっている。70名程度が利用できるような執行はもってきたい。しかし、自治委員会は「薬研」の解散に消極的である。伝統ある本学に「全国薬学

生ゼミナール」などに公式に代表するものがなくなることは惜しい。「薬研」を解散させることは簡単であるが、一度そうしてしまつたら、二度と再興出来なくなるのではないのか?せつかく新メンバーで、やる気のあるものが出てきたのに解散させることはない。自治委員会はどのように考えている。二つの考えともに正しい面があり、どちらとも決めがたい、十分議論をし尽くしてから建設的な結論を出してもらいたいものだ。

学生大会その後

前期定例学生大会において紛糾が予想され、くしくもそれが現実となった58年度予算案も、予算査定についていくつかの課題を残した。無事可決、結果として、以下のような事項が、可決・承認された。①58年度予算、及び予算査定の見直し②執行委員長所信表明、通学バスについて③学費問題特別小委員会活動方針④特に、留年者、休学者の学費が何ら考慮されない点。実習機器破損代に關して⑤図書棟四階の新施設建設⑥に対して、留年者、休学者の質問⑦教務問題「教育効果の点検、模範解答の提示、テストの返却、上記のような事項が学生大会を通過し、執行委員会にその遂行がゆだねられ、7月15日に開催された。85年度第一回学内連絡会議等を通じて、実現に向けて鋭意努力が続けられている。

(公開予算討論会)
7月6日の前期定例学生大会の決議を受けて、一週間後の13日、公開予算討論会が持たれた。これは、58年度予算が前年度比上昇、2・3%、納一万八千円)にとどまり、その不満が予算委員会の査定

芸術の秋、スポーツの秋、そして食欲の秋、と何をしても良い季節となりました。本学でも東薬祭が近くなり、各部の活動も活発になってまいりました。また文化部においても、定期コンサートなどもあつて、これから多忙な日々が続くそうです。

☆文化部門

- ギター 第七回定期演奏会 12月10日 府中グリーンプラザ 5時30分 開場 6時 開演
- チケット 三三〇〇円
- ハルモニア 定期演奏会 11月12日 杉並公会堂(秋窪) 6時 開場 6時30分 開演
- チケット 五〇〇円

合唱 クリスマスコンサート 12月10日 渋谷山手教会 6時 開場 6時30分 開演
- チケット 四〇〇円

☆学術部門 第二回学術祭 統一テーマの発表 11月23日 1時30分 一一一教室

楽祭チケット情報

THE SQUARE
Live Campus T.C.P
DATE NOV.20 pm400⇒1900円

I 横田ひとみ 井上吉美 TO ASOBIMA Show
II THE BADGE LIVE IN T.C.P.

チケットは、楽祭室 または、楽祭委員まで! 200円

前期定例学生大会において紛糾が予想され、くしくもそれが現実となった58年度予算案も、予算査定についていくつかの課題を残した。無事可決、結果として、以下のような事項が、可決・承認された。①58年度予算、及び予算査定の見直し②執行委員長所信表明、通学バスについて③学費問題特別小委員会活動方針④特に、留年者、休学者の学費が何ら考慮されない点。実習機器破損代に關して⑤図書棟四階の新施設建設⑥に対して、留年者、休学者の質問⑦教務問題「教育効果の点検、模範解答の提示、テストの返却、上記のような事項が学生大会を通過し、執行委員会にその遂行がゆだねられ、7月15日に開催された。85年度第一回学内連絡会議等を通じて、実現に向けて鋭意努力が続けられている。

委員会予算を組んだ後、部門分割を行ない、各部門ごとに部門長、会計がクラブと個別に折衝、承認を得て、再び予算委員会で決議して予算案を作ってきた。だが、このシステムでは各クラブは直接、予算を巡って意見を交わすことがない。何か打開策はないものか?知恵を絞っていたが、規約の解釈、ひいては改正にまで係わる問題だけに、時間の都合もあり結論までには至らなかった。以後を重ねて、来年の予算査定に生かされる。ことが期待される。

《学内連絡会議より》
7月15日、58年度第一回の学内連絡会議が、新装成った図書棟四階の第一会議室で開催された。大学側からは、教務、学生部長を始めそれぞれその担当の教授、助教が顔をそろえ、財務担当理事も遅れて姿を見せた。学生サイドは執行、自治委員の正式メンバーに加えて多数のオブザーバーが出席をした。その日の議

編後記

やっと十月号が出来ました。一年生に今回は夫が頑張ってほしい。思わず息を吐いた二年生でした。